

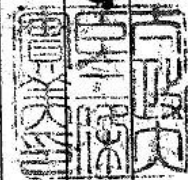
明治十三年十二月十日



副拓長官黒田清隆

大政大臣三條實美殿

明治十三年十二月二十五日



官批第一六號

甲 第貳拾號

幌内炭山鐵道延長等起業基金増額之義伺

幌内炭山開採及岩内炭山改良之義客歲中稟議ヲ經資
金下甘ノ允裁ヲ得其工業ノ準備着手シ雇外國工師
等モ既ニ實地測量ヲ了リ候ニ付猶商議ヲ盡候處幌内
煤炭運出ノ義前案山元ヨリ幌向太達七里間錢路ヲ布
キ夫ヨリ石狩河ヲ下スノ經畫ニテハ水路其半ニ過キ
冬季ハ河水凍結運輸ヲ休メサルヲ得ス且車船積換ノ
為ノ勞費ヲ増シ飲耗ヲ生シ種々不便アリ頗ル歎然
ニ堪ス然ルニ從來小樽ヨリ札幌ニ達スルノ本道小樽
錢函間沿海ノ場所常ニ風潮ニ損壞セラレ曾テ至難ノ
地ト為セシモ今般外國工師ニ命ジ修築ヲ加ヘシメシ
意ノ如ク落成復タ前日ノ虞ナカルヘキヲ信認スル

ニ至レリ因テ熟案スルニ右石炭運出ノ義モ幌向太マ
ヲ架設スヘキ錢路ヲ延長シテ江別ヲ經札幌ニ抵リ夫
ヨリ新築ノ道ニ由テ小樽港ニ及ホシ手官ヲ極線トシ
同所ニ於テ運出ノ煤炭ヲ直ニ船舶ニ積載スルハ河
流ヲ經由スル數者ノ障害ヲ省キ大ニ便利ヲ得ルニ
ナラス沿道沃野未開ノ土地之ニ因テ闢ケ札幌ノ製造
之ニ因テ起リ隨テ人口モ蕃殖シ物産モ興起スルハ言
フヲ竣タス尤モ工業上ニ於テモ前案ノ如クナレハ開
坑築路需用重量ノ物品盡ク石狩河ニ由テ運搬スル故
其冗費少ナカラス若手官ヨリ其業ヲ始ムレハ需用ノ
材料遠送ノ勞ヲ具路ノ延長スルニ應ジ隨テ築キ隨
テ運シ自ラ冗費ヲ省クヘシ前案ニ比較シ其利害得失
此ノ如ク懸殊ナルヲ以テ一時入費ハ相増候得共錢路

延長ノ方法施行致度又各項ノ事業實地ノ調査ニ據リ
更ニ取捨増減スル所アリ前允裁ノ金額ニ對シ三拾貳
萬圓ノ不足ヲ生シ候ニ付猶融通ノ道ヲ求ムルニ汽船
購入費ノ一項ハ漸次人民所有ノ船舶増加シ往來日々
繁盛ニ赴クノ景況ニヨリ他方海運ハ目下差支ナカル
ヘクト存候間該購入費三拾萬圓ヲ移テ改案ノ費用ニ
充テ猶殘額不足ノ分金貳萬圓大特別ノ御詮議ヲ以テ
更ニ御文出ヲ仰キ且右基金中外國購入品ノ代價並雇
外國人給料ニ充ツヘキ分ハ銀貸ヲ以テ御交付相成度
基金全額解納ノ方法ハ煤炭其他ニ所得ヲ舉テ納付ニ
充テ前案ノ期限ヲ短縮シ拾七ヶ年ニテ皆納ノ積受領
順序並解納仕譯書等相添進呈候條速ニ御裁可相成度
此段相伺候也

明治十二年十二月十二日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

伺、仰聞屆候條大藏省ヨリ可受取尤
右金額ハ渾テ通貨ヲ以テ可相渡、付銀
貨ニ需メ分ハ大藏省國債局、申出交換
可致事

明治十二年十二月廿五日



此國庫ニ於テ、新舊十兩銀貨、並ニ五兩銀貨、
更ニ通貨銀貨、并ニ金貨、並ニ金貨、
並ニ金貨、并ニ金貨、並ニ金貨、并ニ金貨、
並ニ金貨、并ニ金貨、並ニ金貨、并ニ金貨、

煤田開採起業基金受領順序

一金百五於貳万圓

基金總額

銀貨六於三万千五百七於五円

紙幣八於八万八千四百貳於五円

別表銀貨額中ニ五於六匁九厘ヲ記入スト雖

此端数ナルヲ以テ今之レヲ紙幣額内ニ組入

ル

但シ明治十一年七月ヨリ同十五年六月迄四ヶ

年ニ割合毎年二月八月兩度御渡ノ積

内

金貳於五萬円

明治十一年八月

開拓使

金貳拾五万円

明治十二年二月

金拾五万円

同年八月

右受取済

金貳拾五万円

明治十三年二月

銀貨貳拾万円

紙幣五万円

金拾七万円

同年八月

銀貨拾三万円

紙幣四万円

金拾五万円

明治十四年二月

銀貨拾万円

紙幣五万円

金拾五万円

同年八月

市

銀貨拾万円

紙幣五万円

金拾五万円

明治十五年二月

市

銀貨拾万五千七百七拾五円

紙幣四万八千四百貳拾五円

煤田起業基金辦納仕譯書

第一期 三ヶ年

明治十五年七月ヨリ
同十八年六月マテ

金四萬円

内 紙銀貨 貳万五千円
紙幣 貳万五千円

一ヶ年分

全期合 金貳万円

内 紙銀貨 四万五千円
紙幣 七万五千円

第二期 三ヶ年

明治十八年七月ヨリ
同二十一年六月マテ

金六萬円

内 紙銀貨 貳万五千円
紙幣 三万五千円

一ヶ年分

全期合 金八萬円

内 銀貨 七万五千円
紙幣 於 万五千円

第三期 四ヶ年

明治廿五年七月ヨリ

金九萬円

一ヶ年分

内 銀貨 三万五千円
紙幣 五万五千円

全期合 金三於六万円

内 銀貨 於四万円
紙幣 貳於貳万円

第四期 七ヶ年

明治三十二年七月ヨリ

金於貳万五千円

六ヶ年間 一ヶ年分

内 銀貨 五万五千円
紙幣 七万円

六ヶ年 合 金七於五万円

内 銀貨 三於三万円
紙幣 四於貳万円

金於壹萬円

永年分

内 銀貨 四万五千七百七於五円
紙幣 六万八千四百貳於五円

全期合 金八於六万円

内 銀貨 三於七万八千五百七於五円
紙幣 四於八万八千四百貳於五円

通計

金百五於貳万円

内 銀貨 六於三万八千五百七於五円
紙幣 八於八万八千四百七於五円

甲 第貳拾壹篇

石狩河口改良費額交付之義伺

土地ヲ開キ物産ヲ興スハ運輸ノ便ヲ設クルヲ
急務ト爲スヲ以テ本使創置以來専ラ此ニ着目
シ新道開設汽船購入等其便益ヲ起ス者少カ
ラス但其業タル多端ニシテ未タ之ヲ尽ス能ハス
本廳管下石狩河ハ其源ヲ石狩嶽ニ發シ東十勝
ニ接シ北天塩ニ隣リ蜿蜒屈曲其長殆ント一百
里其間樹木蔚鬱原野曠漠物産ノ旺盛ヲ將
来ニ期スヘキハ全道中此曠野ノ右ニ出ル者ナク河
水モ亦多量ニシテ数十里ノ間ハ汽船ヲ溯航スルニ
足レリト雖モ獨リ河口ハ風潮ノ爲ニ泥沙填淤
シ船舶ノ出入及ヒ碇泊ノ便ヲ歛キ物産旺盛ノ